

學會彙報

○昭和四十七年度漢文學會總會

〔漢文教育研究會〕 六月二十四日(土) 於都立三田高校

一、研究授業

高校三年漢文「諸子」

三田高 土屋 裕氏

高校二年漢文「戰國の世」

三田高 青木木菟哉氏

二、研究会

第一部

挨拶

三田高校長 吉田 元定氏

教授者説明質疑應答討論

第二部

研究發表「分析批評と漢文教育」

上野高 井關 義久氏

質疑應答討論

挨拶

漢文學會委員長 鎌田 正氏

〔研究發表會〕 六月二十五日(日) 於東京教育大學

一、中國語補語の構造についての一考察 大學院 樋口 靖氏

一、荀子の思想と呂氏春秋の思想 教育大學 中村 俊也氏

一、「呂氏春秋」と「論衡」 福島大學 大久保隆郎氏

一、孔子集團と士 鹿児島大學 高橋 均氏

一、北京語の音節―聲調言語の特質にふれて―

教育大學 松本 昭氏

司會

〔講演〕

「私の研究法について」

和歌山大學 松下 忠氏

〔總會〕

一、議長選出、水澤利忠氏を選出

一、報告

(1) 庶務報告

向島委員

(2) 研究一部報告

内山委員

(3) 研究二部報告

内山委員

二、議事

(1) 昭和四十六年度決算

今井委員

(2) 昭和四十七年度豫算

今井委員

(3) 委員改選

一、委員長挨拶

鎌田委員長

〔松下忠氏學士院賞恩賜賞授賞祝賀會並びに學會懇親會〕

同日午後五時より湯島聖堂にて盛大に行なわる。

○昭和四十七年度月例会

十一月例会 十一月二十五日(土) 於東京教育大學

一、裴頠の『崇有論』について 大學院 堀池 信夫氏

一、袁中郎の文學―リゴリズムへの絶縁狀― 大學院 松本 肇氏

一月例会 一月二十七日(土) 於東京教育大學

一、「把」字句の諸問題 大學院 相原 茂氏

一、般若心經について 大學院 小杉 順一氏

○昭和四十八年度月例会

五月例會 五月二十六日(土) 於東京教育大學
一、魏晉の雜詩について

大學院 後藤 秋正氏

○昭和四十八年度漢文學教室講義一覽

(一) 一般教育科目

今井助教 漢文學講讀(思想)
鈴木助教 漢文學講讀(文學)
緒形講師 漢文學講讀(思想)
內山講師 漢文學講讀(文學)

(二) 外國語科目

牛島教授 中國語二(文法)
松本助教 中國語一(文法)
梅 講師 中國語二(會話)
長谷川講師 中國語一(作文)
志村講師 中國語一(文法・作文)

中村講師 中國語一(讀本)
牧田講師 中國語一(讀本)

松浦講師 中國語三(上級)

(三) 専門教育科目

鎌田教授 中國哲學概論

中國哲學演習(禮記鄭注)

牛島教授 中國言語學特講(現代漢語)

鈴木助教 中國言語學演習(近世語資料)

今井助教 中國文學演習(唐詩)

松本助教 中國思想史

橫山講師 中國哲學演習(易經本義)

中國言語學概論

中國言語學演習(魯迅作品)

中國文學史

中國文學講讀(韓愈文)

中國文學演習(李商隱)

山井講師 日本漢文學講讀

水澤講師 中國思想史講讀(荀子)

王 講師 中國言語學特講

伊藤講師 中國文學特講

梅 講師 中國言語學演習

(四) 大學院科目

鎌田教授 中國思想史(春秋左氏傳注疏)

牛島教授 中國言語學講讀(古代漢語)

鈴木助教 中國文學(白氏文集)

今井助教 中國思想史(易正義)

松本助教 中國言語學講義

橫山講師 中國文學(滄浪詩話)

○文學部紀要論文(昭和四十八年三月)

一、著卦考誤訓注

一、東坡詞論考——作詞の場と作品の分析——

一、戰國四君の思想的意義について

○昭和四十七年度修士論文題目

一、班固の文學觀

一、現代漢語數量構造の研究

一、唐末五代十國詩詞概説

一、魏晉雜詩考

一、楚辭天問篇の研究

一、歸有光の文學——日常體驗からの出發——

○昭和四十七年度卒業論文題目

一、墨家集團について

一、『天演論』における嚴復の思想

一、老子研究

一、董仲舒研究

一、福澤諭吉に於ける「脱亞論」の形成

一、老舍の『離婚』について

一、清末小説研究

一、魏晉文學論考

一、王士禛「秋柳詩」について

一、巴金論

一、新秧歌運動研究

一、現代中國語の文字について

○本會會員の次の二氏が亡くなりました。ここにつつしんで哀悼

今井宇三郎

横山伊勢雄

中村 俊也

野原 薫

樋口 靖

柚木 利博

後藤 秋正

森 秀雄

松本 肇

金田 寛子

小林 明

越川 恵子

矢内あけみ

川西 啓一

松本 松之

戸島 啓子

清水 秀義

内田 重和

石川 洋太

細谷美代子

佐竹 隆一

の意を表し御冥福をお祈りします。

古座野正美氏（教育大第八回卒業）

昭和四十七年十一月十二日

遺族 神奈川愛甲郡愛川町田代一八三 古座野令子

市川憲一氏（文理大第十一回卒業）

昭和四十七年十二月十日

遺族 宮崎市下原町二二〇 市川佐恵子

次號原稿募集

左記により次號第三十三號の原稿を募集いたします。

守します。

一、締切 昭和四十九年二月末日

一、枚數 四百字詰原稿用紙三十枚以内

一、採否 委員會に御一任下さい。

中國專門誌復刊

考古學報 中文・半年刊（五・十一月）

一年 二〇四〇圓、二年 四〇八〇圓、三年 六二二〇圓
（送料共）

考古 中文・隔月刊

一年 二〇〇圓（送料共）

文物 中文・月刊

一年 一八〇〇圓（送料共）

豫約受付けております

古史辨（帙入り）

中華書局（全）二四〇〇圓

資治通鑑（一一四）

中華書局（全）一六〇〇圓

續資治通鑑（一一十二）平裝

中華書局（全）六〇〇圓

電話 (294) 0671 内山書店 東京都千代田区神田神保町 1-15

新刊書

五燈會元

今枝愛眞監修

B5版 一一五六頁 函入

定價 一二、〇〇〇圓

中國禪林僧傳の集大成 大日本續藏經本を影印し新たに索引を加えたもの。

重刊書

近世漢學者傳記 大事典

傳記著作

付系譜・年表

關儀一郎・關義直共編

B5版 七八八頁 函入

定價 九、五〇〇圓

（送料實費）

漢文學研究に必備の書

少部數の再版です。御注文はお早めに

和漢古典籍 中國關係學術書

中國書輸入

113 東京都文京區本郷六丁目一四

東大正門前

琳琅閣書店

電話 八一—六五五五
振替 東京・八六八八

中国の歴史を読みやすい訓点本で！ 長澤規矩也解題

和刻本正史

(影印本)
全三〇冊

史記・漢書をはじめとする「正史」は中国の歴史や文化を研究するための基本図書であるばかりでなく、日本の歴史文化研究上でも必携の書として、古来重用されてきたもの。荻生徂徠ら江戸時代の儒者の苦心の成果である訓点つきの和刻本を最良の伝本により縮印刊行。

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-------------------------------------|
| ① 史記 | 全一冊／各冊
三、五〇〇円 | ⑨ 陳書 | 志村楨幹句読
二、〇〇〇円 |
| ② 漢書 | 全一冊／各冊
四、〇〇〇円 | ⑩ 隋書 | 全一冊／各冊
三、三〇〇円 |
| ③ 後漢書 | 全三冊／各冊
四、〇〇〇円 | ⑪ 南史 | 全二冊／各冊
四、〇〇〇円 |
| ④ 三國志 | 全一冊／各冊
三、六〇〇円 | ⑫ 北史 | 全三冊／各冊
四、〇〇〇円 |
| ⑤ 晉書 | 全三冊／各冊
三、八〇〇円 | ⑬ 唐書 | 全四冊／各冊
四、五〇〇円 |
| ⑥ 宋書 | 全一冊／各冊
五、〇〇〇円 | ⑭ 五代史 | 安永三年刊本
三、〇〇〇円 |
| ⑦ 南齊書 | 荻生徂徠句読
三、八〇〇円 | ⑮ 諸史抄 | 付和刻本漢籍
史部目錄(長
澤規矩也編) 特価二、〇〇〇円 |
| ⑧ 梁書 | 荻生徂徠句読
二、八〇〇円 | | |
- 全巻定価十一万五千元／分割払(六・十二回)有／完結好評発売中

和刻本正史 別刊

全八冊(五月より毎月一冊刊行)

- | | | | |
|------|------------|-------|------------|
| 東都事畧 | 全一冊 四、五〇〇円 | 明史彙編 | 全五冊各六、〇〇〇円 |
| 南宋書 | 全一冊 四、〇〇〇円 | 廿二史劄記 | 全一冊 四、〇〇〇円 |

東京都千代田区飯田橋二一五一四
電話(二六五)九七六四 振替東京五〇〇五

汲古書院

支那文を 讀む爲の 漢字典

新書版 六六〇頁

¥ 980

發行所 山本書店

東京・千代田區神田神保町二一七
電話〇三二六一〇八四七・九三三七

基本大學教科研究教材

訓注 史記會注考證

王陽明傳習錄講本

山田 準

瀧川龜太郎

五〇〇圓

石川梅次郎・原田種成訓注

漢詩作法小講話

濱隆一郎

列傳1 伯夷列傳・老莊申韓列傳

一五〇圓

列傳2 管晏列傳・廉頗藺相如

覆製 菜根譚

三五〇圓

列傳3 田單・呂不韋・刺客列傳

纂標 大學中庸章句全

四五〇圓

列傳4 太史公自序 三五〇圓

纂標 論語集註(増注版 全)

八〇〇圓

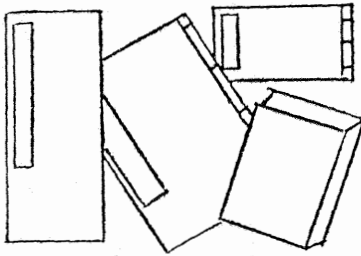
世家1 孔子世家 三五〇圓

纂標 孟子集註(増注版 全)

一〇〇〇圓

これ以外もご注文により發行致します。

和・漢 籍 買 古 書 賣



松 雲 堂 書 店

東京都千代田區神田神保町3~1
電話・東京 九 段 〇 6 4 9 8

小辞典で中辞典を兼ねる

新 選
漢和辞典
改訂 新版

B6小判
一三二二ページ
特価七五〇円

小林信明 編

—— 主な特色 ——

- ◇ 親字八千余・熟語六万一千余
- ◇ 全親字に現代中国音を明示
- ◇ 現代生活に必要な漢字熟語を大幅に収録、実務にも至便
- ◇ 用例は高校漢文教科書を網ら、しかも全文読みくだしつき
- ◇ 学習・実務に便利な付録二十六種

新 選
古語辞典
改訂 新版

B6小判・一三四四
ページ・特価七八〇円
中田祝夫 編

* 四万四千語収録・的確な解説・豊富な用例

新 選
国語辞典
改訂 新版

B6小判・一一六〇
ページ・定価六五〇円
金田一京助・佐伯梅
友・大石初太郎 編

* 七万語収録・標準表記を明示

漢文教育の理論と指導

鎌田 正編

本書は、高校の漢文教育に従事する教師および研究者三十数名が、この課題に應えるべく執筆した本格的な漢文教育論で、とりわけ現場の指導上の諸問題、教材研究のあり方等に編集の力を置き、かつ豊富な資料を付した。

新指導要領の施行を目前にひかえ、古典教育の明日の姿が真剣に問われるとき、漢文教育のみならず、広く古典教育に携わる教師および関係者の方々に、心から本書を推奨する。

〔概 容〕

- 第一編 漢文教育の目標
- 第二編 教材論
- 第三編 教材研究と指導法
- 第四編 訓 読
- 第五編 漢文教育史
- 付 録

A 5判・¥2000

新しい漢詩鑑賞法

劉 若愚著 佐藤 保訳

本書は米國で教鞭をとる中国人が、中国語を母國語としない人々のために書いた新しい漢詩の入門書であり、中国語による詩的表現の特質の解説、伝統的詩觀への批判、分析、批評の導入など、わが國の漢詩鑑賞に新しい息吹きを与えるユニークな興味あふれる書。

〔主要内容〕

第一章 詩的表現の媒体としての中国語

漢字の構造／單語および漢字の含蓄と連想／中國語の聴覚的效果と作詩法の基礎／詩の言語の若干の文法的側面／中國的諸概念および思考と感覺の様式

第二章 中国の伝統的詩觀

道學的觀點——道德教育と社会批判としての詩／個人主義者の觀點——自己表現としての詩／技巧的觀點——文學的修練としての詩／直觀主義者の觀點——觀点としての詩

第三章 総合をめざして

世界と言語の探究としての詩／イメージエリーと象徵表現／引用・引用・派生／対句

四六判・¥900

鈴木修次著 ■新刊

唐代詩人論 上下全二卷

初唐から晩唐にいたる詩人十四人を軸にした詩論・詩人論三二篇。各詩人の閱歷を多面的に考察、詩の成立と構成、思想に分析と考證を加え、唐代詩人の原イメージの解明をこころみる。

【上巻】初唐の歌行體詩論・陳子昂・孟浩然・王昌齡・王維・李白・高適・岑參論15篇【下巻】杜甫・柳宗元・白・劉・韓・李賀・杜牧論17篇／年譜・索引

■A5判／上製函入／定價各卷二五〇〇圓／全二卷五〇〇〇圓

日本四書註釋全書

編纂關本儀一郎 ■覆刻版／全十三卷

近世日本の諸派儒・漢學者による四書の主要な註釋、疎註四三篇を寫本・刊本によって集成、中國思想の受容と演釋をみる。

【著者】仁齋・徂徠・金牧・履軒・精里・善庵・錦城・一齋・南冥・敬所・迷庵・棋園・篁墩・淡窓・豐洲・一堂・大峯・蘭園・漁村・全都・蘭溪／著者二一名／著書數四三點。

■A5判／上製・函入／全卷約六九七〇頁

■定價／各卷 四、〇〇〇圓／全卷セット特價五〇、〇〇〇圓

日本儒林叢書

■關儀一郎編／全14卷／覆刻版

■定價／全卷八、〇〇〇圓／全卷一〇〇、〇〇〇圓

日本藝林叢書

■池田・濱野・三村共編／全12卷／覆刻版

■定價／全卷セット 六〇、〇〇〇圓

日本詩話叢書

■池田四郎次郎編／全10卷／A5・上製

■定價／全卷セット 五〇、〇〇〇圓

嬉遊笑覽 上下全二卷 覆刻版

喜多村信節著

■A5判／上製函入／定價五、〇〇〇圓

支那古韻の研究

飯田利行著

■A5上製／増補覆刻版定價五〇〇〇圓

■各内容見本呈

東京都文京區本郷
6-8-10 〒113

鳳出版

Tel. 811-5117
振替東京154867

○東京教育大學漢文學會々則

編集後記

一、本會は東京教育大學漢文學會と稱し、事務所を東京教育大學漢文學研究室に置く。

二、本會は漢文學及び漢文教育の研究と普及とを圖るのが目的である。

三、本會の會員は左の通りである。

- 1 東京教育大學漢文學・東洋文學及び東京文理科大學、東京高等師範學校の漢文學關係教官（退官者を含む）
- 2 東京教育大學漢文學大學院中國古典學專攻學生及び卒業生、並に東京文理科大學漢文學・東京教育大學東洋文學專攻卒業生
- 3 その他入會を希望する者

四、本會の主な事業は左の通りである。

- 1 總會 年一回
 - 2 例會 年約七回
 - 3 會報及び會員名簿の發行
 - 4 その他必要な事項
- 五、本會の役員は左の通りである。

委員長 一名
委員 若干名

六、委員長は本會を代表し委員とともに運営に當る。

委員は本會の研究・庶務・會計を分擔する。

七、委員長は委員の互選による。

委員は東京教育大學學部學生中から四名、大學院學生から二名、專任教官から三名、一般會員から四名をそれぞれの互選によつて選出する。その任期は二年（學生委員は一年）とする。但し重任は差し支えない。

八、會員は會費年額一千圓、（但し學生は半額）を納める。

九、本會會則の變更は委員會の審議を経て、總會出席者の過半数の承認を得なければならない。

○漢文學會々報第三十二號を上梓できる運びになりました。これ偏に會員諸氏の御協力賜ものと委員一同感謝してします。

○掲載論文を六篇に限つたのは専ら紙面の關係であり、願はくは更に多くのすぐれた論文を掲載したいものです。

○本號もまた共立社で印刷していただき幸でした。

（中村記）

漢文學會々報第三十二號 昭和四十八年六月二十日印刷
昭和四十八年六月二十九日發行

東京教育大學漢文學會

編輯者

内山知也
中村俊也

印刷所

東京都千代田區神田神保町三ノ一〇
株式會社 共立社印刷所
電話 二〇二八

發行所

東京都文京區大塚三ノ廿九一
東京教育大學漢文學會
振替東京四七六〇〇番